

第4回泉佐野丘陵緑地運営会議

日時：2010年12月16日（木） 10：00～12：00

場所：大阪府庁 新分館1号館2階 共用会議室

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授 増田昇（委員長）

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 下村泰彦

元読売新聞編集委員 清野博子

大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）客員研究員 弘本由香里

泉佐野観光ボランティア協会 吉野勝

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 会長 殿元日出夫

泉佐野丘陵緑地パーククラブ 副会長 杉本和彦

◆進行

- ・資料の確認
- ・会議の公開について

◆議事

○報告案件1

事務局から「運営会議開催計画、パークレンジャー養成講座」について報告した。

主な意見

- ・パーククラブへの入会率はとても重要なことである。是非報告していただきたい。
- ・活動が本格的に始まると、さまざまな材料が必要になってくる。伐採木も極力保存しておくことが基本である。当該公園では原則として、有機物に関してはゼロエミッションの考え方にのっとり、全て公園内で処理することが望ましい。

○報告案件2

事務局から「パーククラブの活動について」について報告した。

主な意見

- ・根本的な問題として、パーククラブの活動計画は報告案件ではない。また、素案の段階から運営会議で協議することが望ましい。パーククラブの計画も、公園管理者が行う工事も全てこの場で協議を行うべきである。
- ・活動計画や調査計画は、具体的な内容がわかるよう図化していただきたい。
- ・来年度の計画の中にある「他公園・ボランティア組織の見学」はイベント、対外活動ではなく、学習、勉強会の一環として位置づけたい。イベント、対外活動では、お客さんを呼んで自然学習や体験学習を企画するものとしたい。
- ・パーククラブの会員数が増加したことにより、パーククラブの組織や活動内容の変更、班分けの必要

性が出てくることが予想される。定例会議の中で組織のあり方について定期的に議論を進めないと組織は成長していかない。それを意識してスケジュールを組む必要がある。

- ・巣箱の設置については当該公園の理念に関わる話である。巣箱の設置を進めて野鳥を誘致するのか、自然の状態で植生管理をしながら誘致を行うのか、みんなで議論して決めるべきである。
- ・パーククラブでは今年1年間、とても多くの作業をしてきた。それらの活動は、活動日誌と、作業前後の写真で記録に残している。可能であれば、今年1年間、どの場所でどんな調査、作業を行ったかを1枚程度の図面に落とし込んでいただきたい。
- ・長く活動を続けていくためにも、パーククラブが行える適切な作業量を見極めていただきたい。公園管理者が、緊急雇用対策の事業を活用しながら、ボランティアができない作業の補完を行うべきである。
- ・パーククラブが増えたことで、体を動かすだけでなく、広報などを担う人も出てくる可能性がある。
- ・農地的なエリアが整備されれば、対外的なイベントとして、農業体験や、蕎麦づくり体験を企画していくことになる。対外的な活動はさまざまな刺激になり面白い部分でもある。
- ・1月～3月までは現状の計画で活動をしていただき、来年度の年間活動方針については、パーククラブで議論していただいた上で、次回の運営会議で協議して決定したい。

○協議案件1

事務局から「パークセンターの配置」について説明した。

主な意見

- ・パークセンターの配置について議論を進めるためには、全体のボリュームがわかる模型を作成する必要がある。
- ・屋根の形については1案がよいが、うまく雨水の排水等の処理ができるかどうかについては、専門家の意見を聞くことが望ましい。
- ・屋根の緑化部分について、この屋根の形態でうまく管理できるかどうかの検証が必要である。
- ・次回は1案か3案どちらかに絞って、内部の使い方を議論したい。官としてどのような運営方法が望ましいか、また、ボランティア活動をしたり、ビジターセンターの役割を果たすためにはどのような間取りが望ましいかを議論していただきたい。

○協議案件2

事務局から「コラボレーション区域の設計」について説明した。

主な意見

- ・縦断勾配を8%にするために必要な工事の範囲だけでなく、9%にした際に工事が必要な範囲や、現状は何パーセントなのか、という資料が必要である。
- ・拡幅についても直線区間とカーブの区間では、拡幅する必要な幅は異なる。場所に合わせて必要な幅を設定すべきである。融通性のある判断をするべきであるが、現地を見てみないと判断することはできない。
- ・園路の使用頻度や、通行する車の重量によって園路整備や、耐圧舗装の必要性を検討すべきである。
- ・竹チップ園路に関しては、現状の園路で十分である。新しく水辺が眺められる眺望点までの道を一本

整備してもいいかもしれないが、今の管理の状況から判断すると、これ以上園路を増やす必要性はない。

- ・どこで何をするのか、という活動エリアを落とし込んだ上で、竹チップの園路が必要かどうかを判断すべきである。
- ・園路の両側には間伐した竹が残っており、荒廃感がある。来園者が気持ちよく歩くためには、園路だけでなく、園路の両側1メートルも整備する必要がある。
- ・竹の搬出作業をパークレンジャーが行うと過度の労働負担になるので、緊急雇用対策事業で進めていくことが望ましい。
- ・パーククラブには、公園での活動についてアイデアを出したり、緻密な整備が必要な箇所を担当していただきたい。

○協議案件3

事務局から「第3期パークレンジャー養成講座について」について説明した。

- ・養成講座の実習の際には、交流も兼ねてパーククラブがサポートをすれば良いのではないかと。パーククラブからも、どのような形でサポートできるか、どのような講義ができるか積極的に提案していただきたい。
- ・パーククラブの調査や活動に、受講生がインターンのように手伝いながら勉強できるような機会を設けてもよいのではないかと。
- ・実習の日程とパーククラブの活動日を調整して、現地での共同作業を盛り込むことが望ましい。
- ・養成講座の平日開催と休日開催のローテーションは1年ごとに変更することが望ましい。
- ・養成講座内容を親しみやすい内容に見直すことについては、あまり簡単な内容にしすぎると、飽きられてしまうのではないかと。

○合意形成案件

事務局から「泉佐野丘陵緑地運営会議設置要綱の改正案」について説明した。

- ・改正内容について委員の了解を得た。